

第1回小千谷スキーオリエンテーリング大会 2011年3月6日 新潟県小千谷市

昔も今も名選手を輩出した小千谷の白山コース。中越地震を乗り越えたトレインから新しい選手が羽ばたく。東北関東大震災も力強く乗り越えてゆきたい。

2011年3月6日 新潟県小千谷市
小千谷スキーオリエンテーリング大会



関清（せききよし）。本大会の発起人。1980年のスキーオリエンテーリング世界選手権に日本人として初めて参加した、地元小千谷のスキーオリエンティア。後進の指導も行っている。2006年に発生した中越地震の復興にもあたった。

結果上位

男子エリートクラス

- | | |
|--------|---------|
| 1 堀江守弘 | 0:25:54 |
| 2 黒田幹朗 | 0:29:21 |
| 3 酒井佳子 | 0:32:53 |

女子エリートクラス

- | | |
|---------|---------|
| 1 高橋美和 | 0:22:01 |
| 2 島貫なつみ | 0:22:20 |
| 3 白鳥桂子 | 0:24:22 |

男子Aクラス

- | | |
|--------|---------|
| 1 水嶋孝久 | 0:16:23 |
| 2 山田一善 | 0:18:35 |
| 3 小林岳人 | 0:19:36 |

女子Aクラス

- | | |
|---------|---------|
| 1 渡辺里香 | 0:21:18 |
| 2 水嶋直子 | 0:30:55 |
| 3 清水由布子 | 0:35:18 |

初心者Nクラス

- | | |
|---------|---------|
| 1 吉沢奈子 | 0:16:25 |
| 2 小林正子 | 0:20:12 |
| 3 小林璃衣紗 | 0:22:20 |

「第1回大会」

「関さんが地元で大会を開催する」・・・これはぜひとも参加したい大会だった。「第1回」と名のつた小千谷スキーオリエンテーリング大会が開催された。第2回、第3回と続く意気込みを感じる。

大会発起人の関は日本人として最初にスキーオリエンテーリング世界選手権に参加したパイオニアだ。

名選手を育てたコース

トレインは白山運動公園。関越道小千谷インターからすぐ近くだ。特に山の上でもなく、すぐ近くに集落もある丘陵なのに、充分すぎる積雪があった。まさに豪雪の街。だからこそ関を始めとした優秀な選手が育ってきた。

白山運動公園での関の教え子の中から、井佐英徳選手も育っていった。井佐選手はバイアスロン競技でオリンピックに3回連続出場し、今も活躍している。

（ソルトレーク2002、トリノ2006、バンクーバー2010に出場）



井佐英徳選手（新潟県小千谷市出身）第7回アジア冬季大会（カザフスタン）のバイアスロン競技にも出場して活躍。スキーオリエンテーリング視察団も井佐選手に声援を送りエールを交換した。遠い異国の地でこのような交流があると嬉しい。

関は井佐選手の子供時代をこう振り返っている。

井佐選手は子供のころは小柄でクロスカントリーには不利とも思える体つきだったようだが、すばしこい動きができる子供だった。

学校を卒業すると多くの選手がクロスカントリースキーをやめてしまう中、井佐選手は競技を続け、努力し求めてきた。今の彼があるのは、意志の力なのだろう。

オリエンテーリングもつづけ

2011年3月22日から競技が始まるスキーオリエンテーリング世界選手権に向かっての日本選手の最終種目選考が、この小千谷大会で行われた。その結果あらためて高校生4名を含む合計9名の選手が選考された。この9名はすべて本大会にも参加し、世界選手権に向かってよい練習となった。

ここ小千谷から世界に向けて羽ばたく選手がまた生まれたのだ。

羽ばたく4名を紹介

島貫なつみ

（九里学園高校 山形県）



今回の大会ではベテランの高橋美和に肉薄する2位となり、持ち前のスキー技術に加えてナビゲーション能力の向上も著しい。前のレースより今のレースとどんどん実力が向上している。

オリエンテーリングの楽しさを吸収してどんどん伸びることを期待したい。

渡邊志保

(米沢興譲館高校 山形県)



スキー技術が高く、長距離系を得意とする。今までのスキーオリエンテーリングの日本女子選手に無かったタイプ。2月に開催された札幌スキーマラソン大会女子 25km 一般の部で優勝し、その能力の高さを示している。

高橋謙也

(米沢興譲館高校、山形県)



長身から繰り出す大きなフォームが特徴的。この小千谷大会でもスキー技術が必要な下りの区間でトップラップを奪っている。

渡辺 幸

(米沢東高校 山形県)



今までにオリエンテーリングマガジ

ンにも何度も登場している幸。じいこと武石雄市の指導で数多くのスキーオリエンテーリング経験を持つ。2011年2月にはジュニア世界選手権大会にも参加した。今回初めてシニアの世界選手権大会に挑戦する。

ベテラン組 5 名も

堀江守弘

(アークコミュニケーションズ、東京都)



日本男子の第一人者。山形の拠点を今年から東京に移した。午前中にトレーニング、午後からビジネスマンの生活で世界を目指している。

数年前には単身スウェーデンに飛び込み 2 年間の武者修行で実力をつけた経歴を持つ。

酒井佳子

(Team Ski-O 北海道)



日本女子の第一人者。2年に1回の世界選手権だが今回で7回目の出場となるベテラン選手。実力は抜きんでおり、日本男子で酒井に勝てる者は少ない。小千谷大会では男子選手権コースに出場し、3位のメダルを獲得。

黒田幹朗

(横浜オリエンテーリングクラブ)



2009年に北海道で開催された世界選手権に初出場し、今や安定した高い実力を示している。

高橋美和

(長野県協会 神奈川県)



ママさんになったばかりの美和。出産前後は体が動かない時期もあったようだが、今は毎週トレーニングできている。

白鳥桂子

(Team Ski-O 北海道)



ママさん選手の白鳥。世界選手権は4回目。実は信州大学OGで高橋美和と同窓生。

(木村佳司)